

式 辞

まもなく、桜が開花する知らせが届き、うららかな春の訪れを感じる季節となりました。本日、清瀬市立清瀬中学校第 77 回卒業式を挙行するにあたり、清瀬市教育委員会教育部参事 大島 伸二様、清瀬市議会副議長 佐々木あつこ様並びに市議会議員の皆様をはじめ、大勢の来賓の方々と保護者の皆様のご臨席を賜りましたことに対し、卒業生、教職員とともに、謹んで御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与された卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。凛とした態度で卒業証書を受け取る姿に、中学校生活をやり遂げた満足感と新しい世界へ旅立つ強い決意を感じ取ることができます。また3月に入ってから、インフルエンザが流行し、分散登校をせざるを得なくなっても、今日の卒業式にたどり着くことができたのは、紛れもない皆さんたちの実行力の高さです。

さて皆さんは、代々受け継いできた素晴らしい伝統に加え、皆さん自身が創り出した新しい伝統を校内だけでなく、

保護者や地域の皆様にまで、発信しました。運動会では、本校伝統競技の大縄跳びや一組もクラスの仲間となった交流学級で臨む全員リレーで、最高のパフォーマンスを目指して努力する姿がありました。特に今年度は、実行委員の皆さんたちは、集団行動の演技に取り組み、静と動の絶妙なバランスを見事に演じて、全校生徒だけでなく、応援席の保護者や地域の皆様の感動を誘いました。私も、活動制限のない全日開催の運動会は初めてでしたが、本当に心揺さぶられました。

音楽祭では、素晴らしいハーモニーを所沢ミューズのホール全体に響かせました。美しい声と真剣な眼差しはとにかく圧巻で、観客席は感極り、涙を流している方が多くいらした光景は忘れることができません。

また本校の新しい取組として、総合的な学習の時間における「東京港クルーズ」や「防災教育講演会」などの探究活動、「花の学び舎プロジェクト」や「小学校の運動会支援」などの地域の方々と連携したボランティア活動も、積極的

にチャレンジしてくれましたね。そのような皆さんの精力的な行動を、とても誇りに思います。そして、皆さんの活躍に心から感謝いたします。ありがとうございました。

卒業という節目にあたり、一つ話をします。皆さんとは9月の修学旅行で京都を訪れ、2日目夕刻に大江能楽堂で観世流の能楽の体験学習を行いました。観世流には、今日まで受け継がれる能楽を確立した有名な役者、世阿弥がいます。そして世阿弥は、能楽の芸術性を伝承するために、いくつかの著書を残しますが、その一つの「花鏡」には、

「初心忘るべからず」

という有名な言葉があります。この言葉の大半は、「初めて出会った時の新鮮な純な気持ちを忘れずに」という意味に用いられています。しかし、世阿弥が伝えたい本当の意味は違い、「人がものごとを初めて取り組むときには、間違えや下手さ、まずさが必ずある。その悪い状態の時の気持ちを忘れてはならない。」と訓えています。そして「人は、自分の失敗や間違えがあったときこそ、その事態をはっきり

と見極め、注意が十分に行き渡らなかったことを自覚することによって、明日の進歩がある。」「この初心の積み重ねこそが、その先の無限の可能性へ広がり、つながっていく。」と伝えています。私は、このことを知った時、いつでも、どのような状況にあっても、ものごとくに臨む時には、おごり高ぶったり、油断する気持ちを戒め、謙虚に道を選び、邁進していくことが大切なのだと痛感しました。

最近、志はありながら壁にぶつくとあきらめてしまう人たちを見ます。あきらめてしまったら、せっかくあなたの近くまで、訪れているチャンスも逃してしまいます。これはもったいない、残念なことです。皆さんの人生の中で大変な壁にぶつかった時にこそ、世阿弥が伝えた「初心忘るべからず」をもって己を見つめ、自覚し、努力を惜しまず、前へ前へと進む人であってほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿に、15年間の子育てを振り返り、感激も一入のことと、拝

察いたします。義務教育の9年間で修了し、青年へと大きく成長しました。青年期は、これまでと違う悩みに遭遇することもあります。どうぞ温かい家庭の中で見守り、励まし、時には叱り、最も近くにいる、よき理解者として支えてくださいますよう、お願いする次第です。また、これまで本校の教育活動へ常に温かいご厚情とご支援をありがとうございました。教職員共々、厚く御礼申し上げます。

結びにここにいる卒業生の皆さんが、世界のどこかを、誰かを支えるべく、前途洋々たる人生を楽しみながら歩いていくことを、心から期待し、校長の式辞といたします。

令和6年3月19日

清瀬市立清瀬中学校 校長 佐藤 明子